

滄水会 ニュース

滄水会ニュース 第23号 発行：2013年7月 発行者：滄水会会長 服部信治
 編集委員：藤井信之 菅野恒雄 渡邊信公 前川秀幸 池田知純 松本和重 田村仁志 宮崎真一郎
 塚崎英世 山崎尚志 中谷 努
 〒187-0035 東京都小平市小川西町2-32-1 職業能力開発総合大学校校内 滄水会事務局
 FAX：042-346-7879 E-mail：sousuikai@uitech.ac.jp

新生! 職業大 誕生!!

日本における職業訓練の中核機関として、平成25年4月から職業大が新しく生まれ変わりました。場所は、職業大の創設の地である東京都小平市です。それに伴い、相模原キャンパス（神奈川県相模原市）は閉鎖となりました。新生！職業大の総合課程（平成24年～）では、職業訓練と大学教育の一体化により、卒業時に日本で唯一の「学士（生産技術）」が授与されます。職業訓練や産業界における卒業生の活躍が益々期待されます。これからもOB・OG皆様の温かいご支援をよろしくお願いいたします。

【ACCESS】

西武拝島線・西武国分寺線「小川」駅西口より徒歩5分
 JR武蔵野線「新小平」駅より徒歩25分

【職業大情報】

<https://www.uitech.jeed.go.jp/>



福利会館テラスに飾られていたブロンズ像が相模原キャンパスより移設されました。また、思い出がいっぱい詰まった記念樹木も新職業大へ移植されています。来校の際には、是非ご覧ください。



「AWAITING GREEN WIND」三木 俊治作

小路滄水会副会長からのご挨拶

滄水会副会長の小路（ショウジ）です。私は昭和56年電気科17期として卒業しました。学生時代は、学生寮1階B棟で生活し、硬式テニスに熱中し、充実した学生生活の中で多くの仲間恵まれ、その経験と仲間は現在での大きな財産になっています。その相模原キャンパスはなくなり、小平キャンパスへと戻るとは残念でなりません。とはいえ、大学は存続しますし、我々の相模原での経験が色あせることはないはずで

す。寮祭か訓大祭の時の写真だと思われそうですが、手に入れたのみなさんに紹介させていただきます。残念ながら私は写っていないみたいですが、在学中の同期や後輩、学生生活で大変お世話になった先輩を見つけることができます。

私は現在54歳、私の仕事について紹介させていただきます。パソコンからの情報漏洩を対策するソフトウェア製品を自社開発して販売しています。自社ブランドとしては4thEye（フォース・アイ）、NonCopy（ノン・コピー）という2つを持っています。また、セキュリティ機能を持ったソフトウェアの部品供給によるOEM（相手先ブランド名製造）も行っており、自社とOEMを合わせると国内で500万ライセンス以上の実績があります。セキュリティに必要とされるファイルの持ち出し禁止や暗号化、操作履歴のネットワーク制御などのソフトウェア機能を部品として企画設計し、特許を申請したうえで開発製品化し、自社製品に組み込むとともに、他社へもライセンス供給するという型のビジネスを展開しています。ただ、創業した35歳の時にセキュリティビジネスを描いていた訳ではなく、メカトロニクス関連の受託開発からスタート、デバイスドライバ開発の専業と変化させ、この10年で今のセキュリティ会社へ変わりました。技術的にはハードウェアに近いところのソフトウェアにフォーカスさせてきたという一貫した流れは存在しますが、会社を発展させるために会社を変える努力をしてきました。



思い出の写真と筆者

職業大も行革の流れの中で変化を求められ、その結果として大きく変化することとなりました。この変化が職業大の発展となるべく、最大サポーターとしての役割が滄水会に存在します。先のニュースで服部会長が具体的な指示を出されています。名簿の整理を急ぐ件です。特に昨今の個人情報保護の問題などにより、どこのOB会でも名簿管理の運営が厳しい状況になっているのが現状ですが、このような状況を打破しようと、名簿を発行している大学も増えています。私も、全国・全世界中で活躍する卒業生と、これからの職業大の発展を考えると名簿の整理は急務であると考えています。

昨今のTPP参加が叫ばれている現在の経済圏の状況から、グローバルに影響を持つ人材の活躍が日本の繁栄発展の原動力と考えます。滄水会の名簿を見ても海外勤務する卒業生や祖国の重要なポジションに就いている留学生もおり、例えば、卒業生による連携強化ができる環境を創り上げることも滄水会の大きな役割とも感じます。まずは、この件について理事と協力して進めます。ご協力の程、よろしくお願い申し上げます。

岡部滄水会副会長からのご挨拶

滄水会副会長の岡部です。昭和55年3月に職業訓練大学校木材加工科（15期）を卒業して東京農工大学院農学研究所修士課程修了して昭和58年の4月から青森県工業試験場漆工課に勤務。現在、青森県産業技術センター工業総合研究所の理事兼所長として勤務しています。昨年末にラオスとベトナムに向向いてきました。ベトナム、ラオスから留学して職業能力開発総合大学校を卒業した人たちと同窓会を開きました。大変優秀な人材が自国に帰って頑張っているのには、感動しました。今後は、グローバル化には大変必要な人材ネットワークになると思います。

私の仕事の一部を紹介します。現在、大量に発生する紙や廃材の有効な処理方法・再利用方法が確立されていないため、大部分は焼却あるいは廃棄処分されているのが現状です。低炭素社会の構築が強く求められており、このようは背景の中で、木質系バイオマスは、二酸化炭素の吸収による温室効果の削減、再生可能な資源である点から有効利用が望まれています。

具体的には青森ヒバ廃材や国産材の間伐材の有効利用です。全国の青森ヒバ材の資源量は1,613万㎡で、その97%が国有林です。年間の伐採量は年々減少して約3万㎡くらいです。伐採された木は製材所で加工され、主に建築用材として利用されるが、製材過程においてオガクズなどの廃材が製材量に対して約20~30%発生します。貴重な資源を如何に活用するかが大きな課題です。以下の循環型処理システムを開発しました。廃材が貴



筆者は左から4人目

重な資源に変わるのです。これらの技術は、青森ヒバ材のみならず、他の間伐材、建築廃材、生物系廃棄物にも利用でき、精油や木酢油の製造、多孔質炭素材料・ウッドセラミックスによりバイオマスを循環型に有効利用できるので。青森ヒバ廃材の利用は、青森ヒバ油、ウッドセラミックス、木酢油を活用した青森ヒバ材リサイクル循環システムを構築して持続する低炭素社会を目指すものです。職業能力開発総合大学校の精神である科学・技術・技能によってできた仕事だと思っています。今後益々の母校の発展を心よりお祈りしたいと思います。

平成24年度滄水会賞授与報告

平成25年度3月21日神奈川県相模原市緑区にある「社のホールはしもと」で平成24年度職業能力開発総合大学校卒業・修了証授与式が挙行されました。本会からは服部会長が出席し、会長から学生への祝辞と滄水会賞が授与されました。受賞者のみならず、すべての卒業・修了生のご活躍と社会への貢献を、滄水会会員一同心より祈念しております。

受賞者からのメッセージ

この度は、滄水会賞を受賞することができ、非常に光栄で嬉しく思います。職業大での日々を振り返ると、私は編入学生ですので、職業大で過ごした期間は2年間でしたが、日々の講義や実習はもちろんのこと、留学生をはじめ、様々な場所から集まった同級生との交流を通して、非常に多くのことを経験することができました。編入当初は、授業についていけないか、上手く周りに馴染めるかと不安もありましたが、丁寧にご指導をいただいた先生方と、温かく迎え入れてくれた同級生のおかげで、充実した日々を送ることができたことに、心から感謝したいと思います。4月から、私は埼玉職業訓練支援センターで職業訓練指導員として業務にあたります。職業大で学んだことを生かし、一日でも早く訓練生の力となれる職業訓練指導員になれるよう、努力を重ねていきたいと思っています。

(電子情報システム工学科 受賞者 細井遼太郎)

平成24年度 職業能力開発総合大学校 卒業・修了証書授与式



相馬圭治 (機械) 廣川雅也 (電気) 藤井副会長 服部会長 細井遼太郎 (電子情報) 吉用俊哉 (電子情報) 中村真衣 (建築)

職業大フォーラム開催のご案内

職業大は本年4月に、40年過ごした相模原の地から小平の地に移転統合しました。そこで職業大では、発祥の地である小平に移転したことを機会に、職業大フォーラムを開催することになりました。職業大フォーラムとは、“知の創造を小平から”のキャッチフレーズのもとに、職業能力開発に係るあらゆる分野の研究成果の発表と議論の場の提供を目的とし、職業大職業能力開発研究会が主催する学術研究とこれからの職業能力開発の在り方を議論する全国大会です。

本フォーラムの具体的な内容は、学生、指導員、技術

者、研究者のどなたでも応募していただけるあらゆる分野の研究発表、北野大氏(淑徳大学教授)の特別講演、そして、これまで職業大を卒業したアジア地域からの留学生を中心として、これからのアジアの産業と職業能力開発を議論するアジア職業訓練シンポジウム (Asia Vocational Education Training Symposium : AVETS) から構成されています。滄水会のメンバーの皆様も是非、新職業大のキャンパス見学を兼ねて下記要領で開催される職業大フォーラムにご参加くださいますようご案内申し上げます。

1. **開催日** 平成25年11月29日 (金) ・
11月30日 (土)

2. **会場** 職業能力開発総合大学校
(東京都小平市小川西町2-32-1)

3. イベント

- (1) 職業能力開発研究発表講演会
(口頭発表及びポスター発表)
- (2) 北野大氏(淑徳大学教授)による特別講演
- (3) アジア職業訓練シンポジウム (AVETS)

4. 参加申し込み

研究発表をご希望の方は事前の参加申し込みが必要です。聴講のみの参加については当日の申し込みも可能ですが事前に申し込みをしていただけますと幸いです。

5. 問い合わせ

まもなく、職業大のホームページに職業大フォーラムのご案内がアップされます。電話などによるお問い合わせは下記までお願いします。

【事務局】

独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構
職業能力開発総合大学校 基盤整備センター普及促進課
〒187-0035 東京都武蔵野市仲町1-19-18
TEL : 0422-38-5224 FAX : 0422-38-5228
e-mail : fukyu@uitech.ac.jp

滄水会名簿発行へ向けた取り組みについて

平成14年（2002年）に滄水会名簿の冊子が発行されて、10年余りが過ぎました。このように発行期間が空いた一つの要因は、個人情報保護法が全面施行され、会員情報の取り扱いが非常に厳しくなったためです。しかし、今般、名簿発行の要望を多数いただいていることから、服部会長、小路副会長の下、理事会においても検討

を重ねてまいりました。その結果、平成26年度に滄水会名簿の冊子を発行すべく、下図のようなプロセスで発行に向けて取り組むこととなりました。名簿発行への取り組みにご理解、ご協力の程、何卒よろしくお願い申し上げます。

滄水会名簿の発行プロセス

1 連絡先不明者の調査 (調査済み)

会員数8,064件（物故者も含む）中、不明者は3,095件（別冊不明者リスト参照）。

理事会メンバーを中心に連絡不明者の調査を実施中。

【お願い】別冊の不明者リストに記載されております方々の連絡先をご存知の方は、お手数ですが滄水会宛にメール(sousuikai@uitec.ac.jp)、または同封の「滄水会会員調査票」の裏面を用いてご連絡ください(不明者リストは、平成25年5月時点の調査結果です。その後に連絡先情報を更新して頂いた方は、誠に申し訳ございませんが更新がされていない場合がございます。ご了承ください)。

2 連絡先不明者の調査 (現在、調査実施中)

3 名簿掲載項目の許可確認 (平成26年初夏頃実施予定)

滄水会名簿に掲載する項目（氏名、住所、電話番号などの個人情報）を、どこまで情報公開してよろしいかにつきまして、各会員の皆様に、封書または滄水会WEBページ(<https://www.sousuikai.net>)にて、詳細をご連絡させていただきます。

4 滄水会名簿の発行 (平成26年秋頃予定)

事務局便り

耳寄り情報

平成26年度から職業大で指導員養成訓練の新たな課程が新設されます。この訓練は、都道府県、高齢・障害・求職者雇用支援機構（以下、機構）又は企業等に職業訓練指導員候補として採用された工科系大学の卒業生等を対象に、近年求められている能力を持った職業訓練指導員を養成します。これまで、数多くのOB・OGを指導員として採用している機構では、この訓練の活用を前提とした職員募集を始められ、また、併せて実務経験のある人材も求めているとのこと。興味のある方は、機構ホームページ(<https://www.jeed.go.jp>)に募集要項が掲載されていますので、ご覧になってはいかがでしょうか？なお、春季募集は終了していますが、秋に再度、募集があるようです。

この指導員養成訓練が職業大の柱になるように、OB・OGとして末永く見守っていきましょう。

●住所変更等のお願い

会員の皆様の住所変更等がございましたら、滄水会事務局までご連絡をお願いいたします。

住所変更方法は、同封しております会員調査票に記載のうえ、滄水会事務局までFAX(042-346-7879)して頂くか、e-mail(sousuikai@uitec.ac.jp)宛に、ご送付願います。ご不明な点などがございましたら、事務局までお問い合わせ下さい。

●維持寄付のお願い

滄水会では、会員入会后20年ごとに滄水会維持発展のために維持寄付をお願いしております。20年目の節目に是非、滄水会を盛り上げていただきたく、ご寄付をお願い申し上げます。

今年度維持寄付依頼対象は「1992年(平成4年、28回卒業生)卒業の会員」となっております。該当の会員には払込取扱用紙を同封いたしましたので、次の要領で払い込みくださいますようお願いいたします。

維持寄付金：一口 5,000円

(できるだけ2口でお願い申し上げます)

払い込み方法：同封の払込取扱用紙をご利用のうえ、最寄りの郵便局から払い込みください。